

子どもの甲状腺検査 何のため？ だれのため？



3・11 甲状腺がん子ども基金 シンポジウム

原発事故と甲状腺がん 当事者の声をきく vol.5

原発事故から14年、福島県は事故当時18歳以下の子どもを対象に、2年毎に甲状腺検査を実施しています。検査6巡目の現在、約400人が「甲状腺がん」と診断され再発や転移の報告もあるなか、県の検討委員会では、「過剰診断*であり、検査をやめるべき」との主張が止まりません。

一方、公的検査が行われていない他県では、「子どもたちを守ろう」と市民団体による検査が地道に続けられています。

原発事故後の甲状腺検査は、何のため、だれのためなのか。検査をめぐる問題点や、当事者の思いを共有します。

*過剰診断：将来的に、日常生活や命に影響を及ぼさないがんを診断すること

【主催・問合せ】

NPO 法人 3・11 甲状腺がん子ども基金

03-5369-6630 info@311kikin.org 311kikin.org

NHK『ハートネットTV』で紹介

「福島・甲状腺がん 語りはじめた若者の声をきく」
(2023年8月8日放送) 当事者が出演しました。

NHK 紹介サイトはこちらから▶



3/8(土)

14:00~17:00
(開場 13:30)

会場

いわき市&オンライン

参加費 無料

プログラム

【第1部】
14:00~

●子どもの甲状腺検査と過剰診断言説

崎山比早子(当基金代表理事)

●原発事故時、大人だったら何をやる？

木本さゆりさん(関東子ども健康調査支援基金共同代表)

●ゲストコメント

ノーマ・フィールドさん(シカゴ大学名誉教授・日本文学研究者)

●意見交換

【第2部】
15:30~

●当事者の声をきく [オンライン及び会場参加]

林竜平さん、鈴木さん、Matsumotoさん(福島県) /

オオuchiさん(神奈川県) / 落台さん(宮城県)

申し込みは
こちらから



◆会場参加(先着50名)

いわき産業創造館 会議室1

JRいわき駅前ビル「LATOV」(5階)6階

◆オンライン参加: Zoom ウェビナー